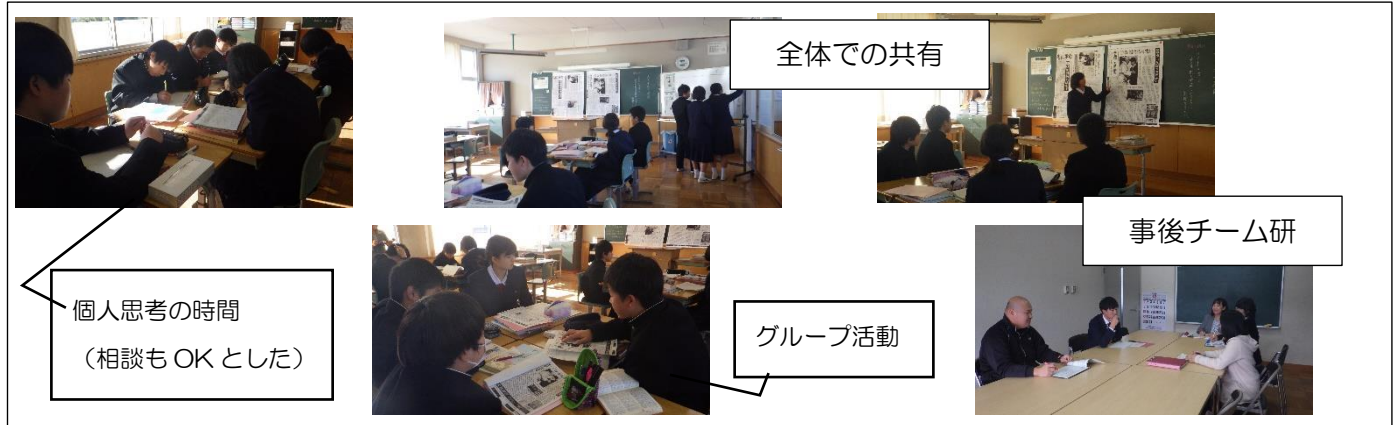




○生徒が主体的に学べる仕掛けがあったか。

- ・グループ活動を入れながら、自分たちで考え、話し合う時間が設定できていた。
- ・個人思考の時間も確保し、後のグループ活動に生かされていた。
- ・前時までに指導してきたことが、本時の内容に生かされている。
- ・生徒にとって、比較し、考えを深められる題材だった。

○課題を追求する段階で、教師のファシリテートはどうだったか。

- ・グループ活動中でも、適宜教師が言葉を拾い、グループ内に問題提起をして話し合いを深める手立てができていた。
- ・グループ活動の時間を多くとって机間指導をしたことで、終末の発表でグループ同士のファシリテートに繋がった。

○交流場面において、生徒が多様な意見を認めることができるような工夫があったか。

- ・1つのテーマについてグループ全体で話を深められているグループがあった。
（例：キャプションに書かれている言葉の比較など）
- ・グループ発表のなかまの意見から、考えを整理することができた生徒もいた。
（他者の意見を認め、自分のものにしている）
- ・意見の出し合いになっている場面もあるので、多様な意見（批判的思考や効果的な伝え方）について、各教科や教科以外の場面でも指導していくことが必要。

○生徒が自分の言葉で学びを振り返ることができていたか。

- ・「できた、分かったこと」だけでなく、「分からないこと、疑問点」についても書かせることで、次の課題設定や全体共有に繋がる。
- ・なかまの意見から学んだという意見が多くあった。

○その他 【東部教育事務所 濱田指導主事より】

- ・今回のチーム会で話し合われた内容は、各チームや全体に向けて発信していったほしい。
- ・どの教師も、生徒1人1人の気づきを見とれていた。（日頃の生徒との関わりの成果）
- ・毎時時間ではなく、単元という大きなくりで生徒の思考をまとめていくことも今後必要になってくるだろう。その時に教師は、本時でどこまで到達させたいのかを押さえておく。
- ・「ファシリテート」について、再確認をする。